准教授　**野村　悠里**　NOMURA, Yuri

1. 略歴

2000 年 3 月　慶應義塾大学法学部法律学科卒業
2000 年 4 月　慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専修修士課程入学
2002 年 3 月　慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専修修士課程修了、修士（法学）
2006 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野修士課程入学
2008 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野修士課程修了、修士（文学）
2008 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野博士課程入学
2012 年 3 月　ポーラ美術振興財団若手芸術家在外研修員
2013 年 9 月　文化庁新進芸術家在外研修員
2014 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野博士課程単位取得満期退学
2014 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科博士課程学位取得、博士（文学）
2015 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻助教
2019 年 4 月　日本学術振興会海外特別研究員、ロンドン大学客員研究員
2020 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

文化資源学

b 研究課題

ヨーロッパ製本史、装幀史、書物史

ヨーロッパでは伝統工芸として、山羊革や仔牛革で装幀することが行われている。フランスでは二十世紀に至るまで、書物は仮綴本で販売され、読者は購入した本を製本工房に依頼して革装本に綴じ直し、箔押しで装飾するという読書文化が根づいてきた。フランスの製本工芸は高度な装飾技術が発達したことで知られ、製本史では王侯貴族の金箔紋章本を時系列的に分析する研究が行われてきた。ドゥヴォシェル『フランスの製本』(1959-61)、ドゥヴォー『製本の十世紀』(1977) によって製本の通史的分析が行われ、表紙のデザインに関してはエスメリアン『十七世紀における製本工房の装幀』(1972)、ミション『十八世紀のモザイク製本』(1956) により装幀様式の分類が試みられてきた。しかしながら、表紙デザインや金箔紋章による所蔵者の特定が重視され、製本の技術については十分に分析されてこなかった。装飾的に優れた装幀が研究対象とされ、意匠の分析は表紙の全体的印象や主観的見解に依拠してきたという問題点がある。これらの先行研究を踏まえ、より広範な読者層の装幀を研究対象とし、製本工房における技術の継承や製本職人の製作工程を解明する研究課題に取り組んでいる。また、書物を次世代に継承していくための保存修復の問題についても考察を行っている。

c 概要と自己評価

これまでの研究として、製本職人の記録や技術書等の文化資源学的資料を考察し、主として十七世紀から十九世紀におけるフランスの工芸製本史に取り組んできた。以下四点が研究経過である。第一に、製本工房の継承に関する分析である。王室製本師の一族や製本職人組合監督官の家系図を作成し、世代間における工房の継承について考察した。同業者組合が解体された後、製本職人の多くはイギリスに亡命したが、十九世紀以降に活躍した製本職人についても分析を行っている。第二に、製本技術書の考察である。十八世紀以前に出版された技芸書や百科全書を検証し、十九世紀以降の製本職人による手引き書との相違を明らかにした。また、イギリス、ドイツ、オランダ等のヨーロッパ諸国で出版された製本技術書との比較を進めている。第三は、製本の技術的解明である。王令によって認められた「ヴレ・ネール」、非合法の「フォー・ネール」、目引きをした「ア・ラ・グレック」という技法について分析を行った。また、どのように量産に適した製本技法が開発されていったのか、産業革命に至る各国の技術的変容の解明に取り組んでいる。第四は、装幀のデザインの変遷である。手工業製本においてどのように箔押し技術が発展してきたか、型の組み合わせによる模様のパターンを検証している。

d　主要業績

(1)　著書

共著、東京大学文化資源学研究室編、『文化資源学――文化の見つけかたと育てかた』、2021.10

単著、野村悠里、『書物と製本術――ルリユール／綴じの文化史』三刷改訂、2022.3

(2)　論文、論稿

野村悠里、「マイケル・ファラデーと製本術」、『文化交流研究』、34、2021.3

野村悠里、「点と点を結ぶ想像力」、『技術史教育学会誌』、22(1･2)、2021.4

野村悠里、「本の技術と歴史を伝えるビブリオテカ・ウィトキアーナ」、『技術史教育学会誌』、23(1)、2021.10

(3)　解説

Yuri Nomura, Reliure traditionnelle (Masuji Ibuse), Les 4 éléments: création de reluires contemporaines, 2021.5

野村悠里、英国製初期クロス装幀の損傷調査、『文化庁 DOMANI・明日記録集/The Art of Tomorrow 1998-2021』、2022.2

(4)　学会発表

国内、講演：ライアン・ホームバーグ、木下直之、企画進行：野村悠里、「文化資源 IN THE アメリカ南部―Graham 市での南北戦争記念像の反対運動」、文化資源学会特別講演会、2021.3

国内、講演：川瀬さゆり、中野芳彦、司会：福島勲、企画進行：野村悠里、「文化資源としてのノートル＝ダム」、文化資源学会特別講演会、2021.12

(5)　教科書、教材

『本の未来』、2021 年度文化資源学入門編、監修、文化資源学研究室、2021.1

(6)　研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、野村悠里、研究代表者、「製本術の工程分析に関する基礎的研究：東京大学所蔵「英国書史関係集書」を対象として」、2020～

東京大学女性教員スタートアップ研究費、野村悠里、研究代表者、2020

3.　主な社会活動

(1)　学会

国内、文化資源学会理事、2020.7～